

受託団体名	北海道教育委員会
-------	----------

## I 概要

### 1 モデル地域の概要

①モデル地域の種類 ※Ⅰ型、Ⅱ型、Ⅲ型のいずれかに○を付してください。

<input type="checkbox"/>	Ⅰ型（連携型：特別支援学校高等部及び高等学校の連携）
<input checked="" type="checkbox"/>	Ⅱ型（単独型：特別支援学校高等部のみ）
<input type="checkbox"/>	Ⅲ型（単独型：高等学校のみ）

②モデル校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
北海道教育委員会	特別支援学校	知的障害	ほっかいどうしんしのつこうとうようごがっこう 北海道新篠津高等養護学校

※協力校（5校）…モデル校の取組をサポートする学校

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
北海道教育委員会	特別支援学校	知的障害	ほっかいどうきつぽろこうとうようごがっこう 北海道札幌高等養護学校
			ほっかいどうしらかぼこうとうようごがっこう 北海道白樺高等養護学校
			ほっかいどうきつぽろいなほこうとうしえんがっこう 北海道札幌稲穂高等支援学校
			ほっかいどうおたるこうとうしえんがっこう 北海道小樽高等支援学校
			ほっかいどうちとせこうとうしえんがっこう 北海道千歳高等支援学校

### 2 研究課題

札幌市を中心とした石狩管内を主な進路先としている職業学科を設置する道立特別支援学校（以下、「石狩圏道立6校」という）においては、すべての学校でキャリア教育の全体計画等を作成し推進しているが、教職員の知識や理解に個人差が大きい状況である。そこで、各学校において、外部講師による障害者の就労に関する校内研修会を開催して、すべての教職員の共通理解を図る。

さらに、石狩圏道立6校において、効率的・効果的な職場（現場実習先）開拓となるよう、ハローワーク等の関係機関と連携を図りながら、職場（現場実習先）開拓や実習先選定の仕組みを構築するとともに、生徒一人一人の特性に応じた実習先選定（ジョブマッチング）を行うことで就職率の向上を目指す。

### 3 研究の概要

これまで、北海道の高等養護（支援）学校では、各学校が独自に職場（現場実習先）開拓を展開してきたことから、場合によっては一つの企業に複数の学校が同一の時期に訪問し生徒の就労等に係る活動を行うなどの課題が生じてきている。

そこで、石狩管内における効率的・効果的な職場（現場実習先）開拓を行うことを目的とし

て、就労支援ネットワーク会議を開催し、機関連携の促進を図る。既存組織である進路指導研究連絡協議会（以下、進路協という）をもとにした石狩圏道立6校における就職推進会議を開催し、各校共同の職場（現場実習先）の開拓、生徒一人一人の特性に応じた実習先選定（ジョブマッチング）及び調整の在り方について研究協議を行い、組織的職場（現場実習先）開拓の体制づくりを行う。また、本研究の成果は、高等学校長会議などの機会をとらえ、情報還元するなどして高等学校への就労支援においても活用する。

#### 4 研究の成果

石狩管内における効率的・効果的な職場（現場実習先）開拓を行うための、就労支援ネットワーク会議や石狩圏道立6校における就職推進会議を開催するとともに、各校共同による組織的な職場開拓のシステムづくりのために、道立特別支援教育センターWebページ内に特設サイトを設置し、職場（現場実習先）開拓に関する情報共有や特別支援学校の教育活動、就職を支援する企業（以下、特別支援学校サポート企業という）を募るチラシを掲載した。さらには特別支援学校サポート企業に係る道内主要経済5団体への協力を働きかけ、共同での取組を行うことができた。その結果、特別支援学校サポート企業に120社（H26.10～H27.2）の登録を得ることができた。今後は、これらの取組を継続し、特別支援学校サポート企業リストを活用した組織的職場開拓のシステムを運用していくことで、組織的職場開拓のシステムを確立するとともに引き続き活用の促進を図っていく。

#### 5 課題と今後の方策

今後は、障害者雇用の経験のない企業に対し、知的障害のある生徒についての理解を促進するための取組をさらに充実させていくことが必要である。

この課題の解決のために、さらに効率的・効果的な職場（現場実習先）開拓組織的職場（現場実習先）開拓の体制づくりのため、障害者雇用に対する事業所への理解啓発などの充実に取り組む。